

人種的『ソーシャルディスタンス』への挑戦

— 奥村多喜衛の事例 —

会場とリモート<Zoom>

講師：吉田 亮（同志社大学社会学部教授）

近年、コロナ感染の蔓延とともに「ソーシャルディスタンス」（以下「社会的距離」）という言葉をよく聞くようになりました。社会的距離は、ほぼ90年前に Emory Bogardus (1925) がその研究で、「前社会的・社会的関係一般を特徴付ける理解と親密度の程度」という意味で使用しました。この場合、社会的距離が広がると、人々は他の人種・民族集団の構成員から距離を置くか、排除するようになるということになります。本講演では、社会的距離について、20世紀前半期ハワイ日系人史を事例に具体的に考えてみることにします。まず、当該社会において社会的距離は何によって、どのように広げられていったのかについて見ます。ここでは特に人種主義がキーワードとなります。次に、この社会的距離を縮めるためにどのような努力がなされていったのかについて見ます。ここでは特に現地ハオレ（白哲人）プロテスタントリベラルと日系プロテスタント牧師奥村多喜衛による排日差別撤廃のための実践活動とその理念について検討します。

日時 2022年 3月12日(土) 13:30~15:50

会場・参加方法 関西セミナーハウス、または、リモート参加 (Zoom)

参加費 来館/リモート共通 1,000 円 学生 500 円 [リモートは振込で (振込先裏面)]

新型コロナウイルス感染
の状況によって、変更
する可能性があります。

講師は、会場で講演し、話し合いに参加します。参加者は、次のいずれかの方法で参加できます。

[来館参加] 関西セミナーハウスの会場に集まり、講演を聞き、話し合いに参加します。

[リモート参加] パソコンかスマートフォンを利用して、任意の場所でネットを通して参加することができます。申し込みの際にメールアドレスをお知らせください。メールアドレスあてにZoomの招待状をお送りします。



吉田 亮 よしだ りょう

1957年、兵庫県に生まれる。
同志社大学神学部、同大学院神学研究科、Graduate Theological Union,
Berkeley でキリスト教史を学ぶ。Ph. D.

現在、同志社大学社会学部教授

主要著書：

(単著) 『ハワイ日系2世とキリスト教移民教育』学術出版会、2008

(単著) 『アメリカ日本人移民とキリスト教社会』日本図書センター 1995、

(編著) 『変容する「二世」の越境性』現代史料出版、2020、その他

